

令和7年度 第49回 「東南アジア 青年の船」 事業

The 49th SSEAYP in 2026

内閣府
青年国際交流担当室

2025年4月



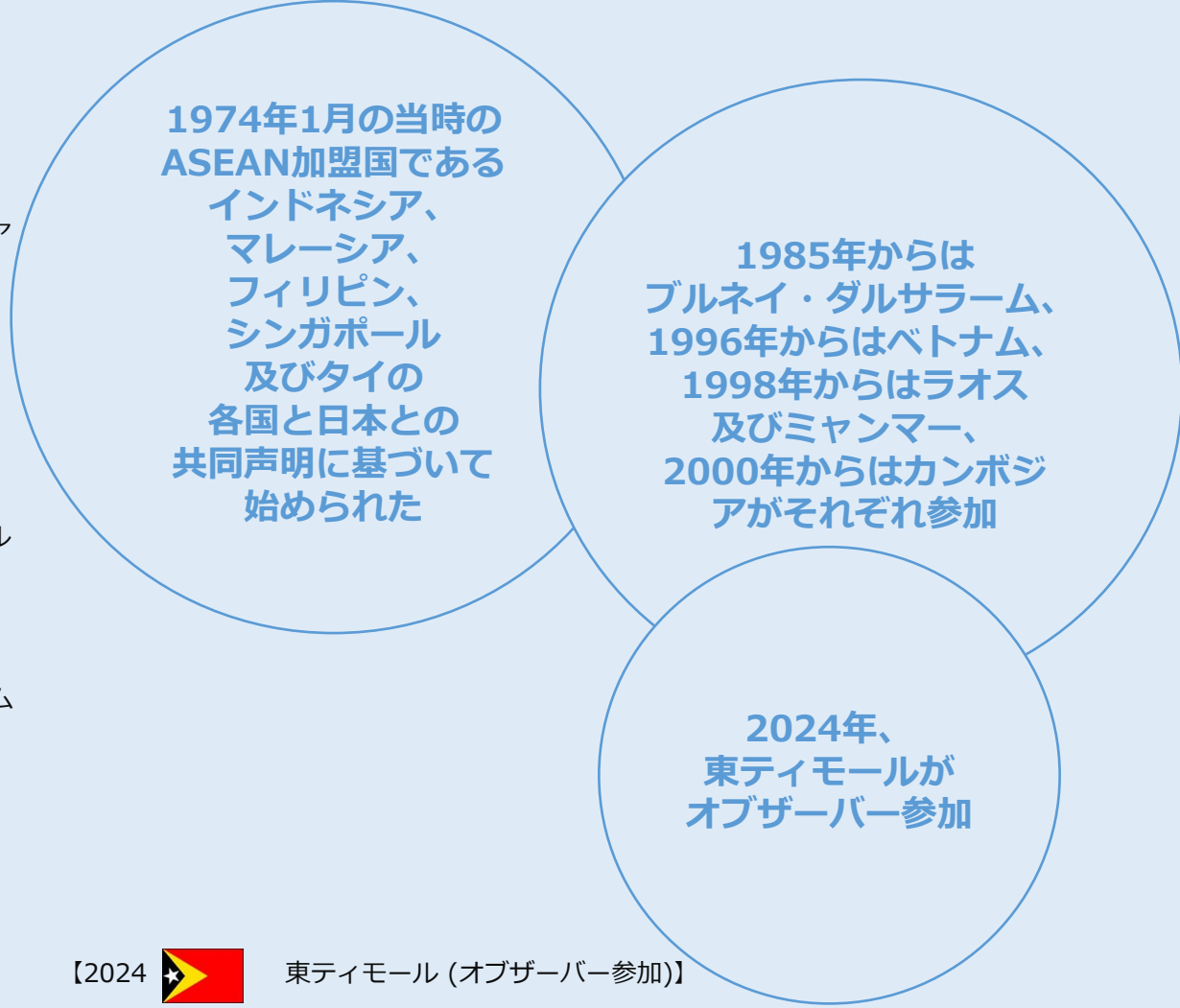
「東南アジア青年の船」 事業とは

経緯

「東南アジア青年の船」事業（SSEAYP）は、日本と東南アジア諸国連合（以下「ASEAN」という。）の各国との共同声明（1974年）を契機に、日本政府とASEAN各国政府との共同事業として開始したものである。ASEAN各国の積極的な参加と協力の下に、日本国政府（内閣府青年国際交流担当室）が実施している。

参加国

- 1974  インドネシア
-  日本
-  マレーシア
-  フィリピン
-  シンガポール
-  タイ
- 1985  ブルネイ
ダルサラーム
- 1996  ベトナム
- 1998  ラオス
-  ミャンマー
- 2000  カンボジア
- 【2024  東ティモール (オブザーバー参加)】

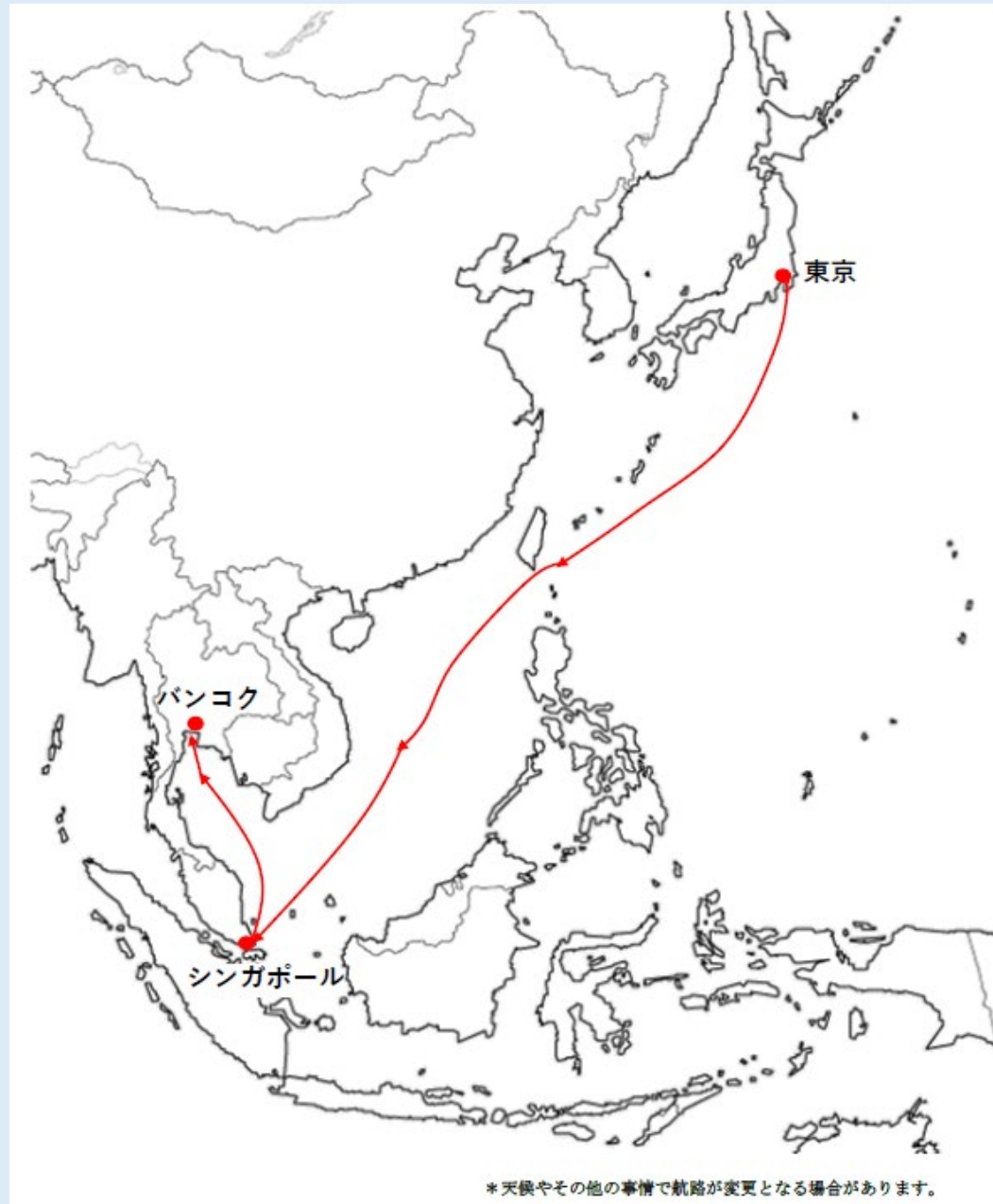


目的

「東南アジア青年の船」事業は、日本及びASEANの青年相互の友好と理解の促進、青年の国際的視野の拡大、国際協調精神の醸成及び国際協力における実践力の向上を図り、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮することができる次世代リーダーを育成することを目的としている。

令和7年度プログラム日程及び航路 (2026年1月15日～2月17日)

	航海日数	月 日	事 項
第1日		1月 15日 (木)	ASEAN各国ナショナル・リーダー、参加青年来日
第2日		16日 (金)	オリエンテーション、参集式
第3日		17日 (土)	地方プログラム①(表敬、ホームステイマッチング、ホームステイ)
第4日		18日 (日)	地方プログラム②(ホームステイ) 《ホームステイ》
第5日		19日 (月)	地方プログラム③(ホームステイ、交流会) 【ファシリテーター来日】
第6日		20日 (火)	地方プログラム④
第7日		21日 (水)	東京プログラム
第8日		22日 (木)	東京プログラム
第9日		23日 (金)	東京プログラム
第10日		24日 (土)	東京プログラム
第11日	1	25日 (日)	乗船
第12日	2	26日 (月)	出国手続、出航式、東京出航
第13日	3	27日 (火)	航海 1
第14日	4	28日 (水)	航海 2
第15日	5	29日 (木)	航海 3
第16日	6	30日 (金)	航海 4
第17日	7	31日 (土)	航海 5
第18日	8	2月 1日 (日)	航海 6
第19日	9	2日 (月)	航海 7
第20日	10	3日 (火)	航海 8
第21日	11	4日 (水)	シンガポール入港
第22日	12	5日 (木)	寄港地活動
第23日	13	6日 (金)	寄港地活動
第24日	14	7日 (土)	寄港地活動 《ホームステイ》
第25日	15	8日 (日)	シンガポール出港 【事後活動組織代表者乗船】
第26日	16	9日 (月)	航海 9
第27日	17	10日 (火)	航海 10
第28日	18	11日 (水)	バンコク(タイ)入港
第29日		12日 (木)	寄港地活動
第30日		13日 (金)	寄港地活動
第31日		14日 (土)	寄港地活動 《ホームステイ》
第32日		15日 (日)	寄港地活動 関係各国連絡会議 【管理部員下船】 【政府代表者到着】
第33日		16日 (月)	成果発表会、サマリーフォーラム、解散式、解散交歓会
第34日		17日 (火)	日本及びASEAN各国政府代表者、ナショナル・リーダー、参加青年、事後活動組織代表者、ファシリテーター、帰国



*天候やその他の事情で航路が変更となる場合があります。

*日程は諸事情により変更になる場合があります。

令和7年度参加国及び各国参加者数

■ 参加国

ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国及び日本

※ オブザーバー参加：東ティモール民主共和国

■ 各国参加者数

- ・ ASEAN加盟国：ナショナル・リーダー（NL）1名、参加青年（PY）16名、ユース・リーダー（YL）1名及びアシスタント・ユース・リーダー（AYL）1名含む
- ・ 日本：NL 1名、PY 20名（YL 1名及びAYL 1名含む）
- ・ オブザーバー（東ティモール）：NL 1名、PY 6名（YL 1名及びAYL 1名含む）



令和7年度参加者総数

参加者総数

○ NL 11名

○ PY 170名

合計：181名

国名	NL	PY	合計
ブルネイ・ダルサラーム	1	16	17
カンボジア	1	16	17
インドネシア	1	16	17
ラオス	1	16	17
マレーシア	1	16	17
フィリピン	1	16	17
シンガポール	1	16	17
タイ	1	16	17
ベトナム	1	16	17
日本	1	20	21
東ティモール（オブザーバー）	1	6	7
合計	11	170	181

令和7年度 ディスカッション テーマ

ディスカッション・テーマは
日本ASEAN友好協力に関する
共同ビジョン・ステートメント
2023 実施計画(2023年12月17日)
を参考に選定

★令和6年度からの大きな変更点

DG	ディスカッション・テーマ	実施計画 段落番号	内容
1	質の高い教育★	1.8~1.16	日本やASEAN各国における教育の現状と課題について理解したうえで、全ての人々が包摂的かつ質の高い教育、そして生涯学習を享受するために青年はどのような貢献ができるかを議論する。
2	経済成長と持続可能で責任ある観光★	1.7 2.1	現在の世代の暮らしを維持しながら、将来の世代も地球で安全に暮らし続けられる「持続可能な社会」を進めていく中で経済成長を発展させていくために、青年がどのように貢献できるかについて議論する。とりわけ、日本やASEAN各国における観光の現状と課題を把握し、観光先の経済、文化、社会、環境に対して与える負の影響を軽減し、旅行者及び観光地双方により良い影響をもたらす持続可能で責任ある観光を実現するために青年はどのような貢献ができるかについても議論する。
3	地球環境と気候変動	2.4 2.6	自国及び日・ASEAN地域の環境事情を把握し、気候変動や生物多様性に関する課題を認識した上で、各地で開発や都市化が進み、持続可能な社会を作るために、青年がどのように貢献できるかについて議論する。
4	防災と復興	2.7	日本やASEAN各国における災害の現状と課題について理解した上で災害を未然に防ぐための予防及び災害後の復興について、政治、社会、教育等の観点から青年がどのように貢献できるかについて議論する。
5	社会福祉と包摂的な社会の実現★	2.12	日本やASEAN各国における社会福祉制度の現状と課題について理解した上で、高齢者、障害者、子どもなど、誰もが役割を持ち、支え合い、安心してその人らしい生活を送ることができる平等な機会が確保される包摂性と多様性の社会を実現するために、青年がどのように貢献できるかについて議論する。
6	デジタル社会と人工知能(AI)	2.9	デジタル技術が使用されている世界各国のベスト・プラクティスや、日本及びASEAN各国の現状や課題を理解した上で、あらゆる分野においてデジタル社会の促進に青年がどのように貢献できるかについて議論する。とりわけ、AIの活用が進む中、AI技術の活用の拡大と労働市場への影響についても議論する。

「日本ASEAN友好協力に関する共同ビジョン・ステートメント2023 実施計画（2023年12月17日）」の日本語仮訳は以下のURLをご確認下さい。
[100601230.pdf](#)